

## 2008年10月～2008年12月

### コミュニティとのオリエンテーション

森林再生プロジェクトの実施地は、これまでの周辺のコミュニティが農業を営むために森林を切り開いていた場所も多く、従来の土地利用方法を変えるには、コミュニティの理解とプロジェクトへの参加が不可欠です。

プロジェクトの開始に当たり、周辺の住民とのオリエンテーションを行い、再植林により森林を再生しながら持続的な農作物栽培を行う活動の説明を行いました。また住民の要望をとり入れるコンサルテーションも行い、住民参加によりプロジェクトを設計しました。これらの活動を通じ、森林省職員、CI とプロジェクトを実行する土台を固めると同時に、森林再生の重要性を再認識しています。



オリエンテーションの様相

(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

### 苗床の準備



苗床養成の風景

(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

300 m<sup>2</sup>の苗床を公園内の森林再生場所近くに設置しました。苗床は植林する前の苗期を植林前に地面の化学組成や温度などに慣らし、生存率を上げる役割を果たします。

この地域の固有種の樹木と住民の食物用に栽培する種を苗床に準備しました。

### 植林と森林再生

森林再生のための植林場所は、スカブミ県ナグラク郡です。CI、国立公園スタッフとコミュニティの約30名の農家組織メンバーが協同で約5000の苗を10ヘクタールの土地に植えました。

次回はまた新たに10ヘクタールの森林再生・植林を行う予定です。CIと国立公園職員の指導の下、地元の農家組織メンバーが管理を行い、3ヶ月ごとに根づかなかった植物の植え替えを行います。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

### カーボン量の調査

このプロジェクトでは、副次的な目標として、プロジェクトによるカーボン(炭素)吸収量の測定を行い、森林再生および保全プロジェクトの成功モデルとして示すことで、インドネシアの森林を利用した気候変動緩和への貢献を啓発します。

調査対象森林地帯を定め衛星写真により自然林分布面積を測った結果、グヌングデ・パン格蘭ゴ国立公園内全ての森林を保全し、周辺の荒廃した土地全体で再植林を行った場合、全体で約 550 万トンの CO2 削減・吸収効果が見込めることがわかりました。

### 生物多様性調査

CI では国立公園内で生物多様性の調査を行っています。今回は、パートナーNGO のスマック (SEMAC) と国立公園職員との協働により、仕掛けカメラを使用した哺乳類調査を行いました。10 台の仕掛けカメラを設置したところ、これまで、ジャワヒョウやジャワメジカなど、きわめて固有種率の高い 12 種の哺乳類が記録されました。この調査は今後も継続され、さらに多くの哺乳類を記録できることが予想されます。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

### エコツーリズムの開発

グヌングデ・バングランゴ国立公園内にある CI のボドゴール自然保護教育センターは 1998 年に設立され、“熱帯雨林の秘密を探してみよう” (Reveal the Secrets of the Tropical Rain Forest) という環境教育プログラムを行っています。このプログラムでは国立公園の大切さとそこに生息する固有の生物を紹介しています。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

公園を訪れる人は、訓練を受けた地元のファシリテーターによる丸一日のプログラムに参加することができ、グループに分かれてアクティビティやゲーム、ディスカッションに参加し、ガイドの説明を聞きながら整備されたトレイルを歩くことができます。この中で参加者は、林間部を利用する様々な動物たちの生態系や地元の部族が使う薬草、絶滅の危機に瀕する種の生態学など、熱帯雨林の生物多様性やその保全について学ぶことができます。

エコツーリズムのために、生物や生態系を説明するサインボードをトレイルに 10 カ所設置しました。今後は、新しい教育ツールを開発していくとともに、地元の希望者へのエコツーリズムガイドやファシリテーターの養成訓練を実施していきます。

### 環境教育と移動式環境保全クラス

生徒や住民コミュニティの環境意識やダイキンプロジェクトの理解を高めるため、移動式の環境教育と意識啓発クラスを行っています。CI は地元 NGO パートナーのスマック (SEMAG) と、国立公園職員と協同で活動を行っています。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

このクラスは 4WD 車一台に環境教育教材や教育のための映画などをつめこみ、学校やコミュニティを訪れて、映画やミニ図書館を提供するほか、参加型ゲームやディスカッションなどを行います。活動を行うにつれ参加者は増加しつつあり、公園周辺に住む人々が保全活動に参加し、森林再生・植林プロジェクトなどの他の活動にも参加するきっかけを作り出しています。また、環境教育の成果として、違法な伐採行為を報告したり、違法行為から森林を守る行動をとるなどの協力が増えています。

これまで 2 つの小学校とダイキンプロジェクトに近い 2 つのコミュニティを訪れて計 200 人を対象に活動を行いました。

### 社会経済調査の実施

コミュニティの人々の生活や暮らしを理解し、プロジェクトを通じた生計向上を促進するため、実施プロジェクト周辺のナグラク都内の4つのコミュニティを対象に社会経済調査を行いました。調査結果から、およそ 80%の人々が毎月 \$ 40 ドル(約 4千円)以下の生活をしており、教育機会は小・中学校卒業どまりであること、土地を所有していない人がほとんどで、国立公園内で、主にキャッサバを栽培・販売することで生計を立てるほか、米、野菜などを育てていることが多いことがわかりました。



周辺のコミュニティの社会経済調査の様様  
(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

※画像および文章の無断転用はご遠慮下さい。